

平成30年度アヤメキバガのトラップ調査について

小川恒彦・佐藤祐輔

前年度に引き続き、フェロモントラップによるアヤメキバガの調査を平成30年4月から10月にかけて行った。その結果から、当園では、5月下旬と8月初旬に2回成虫が発生していることが示唆された(図、表)。成虫の発生時期をある程度予測できるようになったため、効果的な薬剤散布時期の予測が可能となった。

はじめに

アヤメキバガ(メイチュウ)とはキバガ科に属する鱗翅目昆虫で、幼虫がアヤメ科の植物の新芽を摂食することから花菖蒲園などでは害虫として知られている。本調査は、当園の花菖蒲園でアヤメキバガをフェロモントラップによって捕獲し、成虫の個体数の推移を確認するものである。本調査は日本花菖蒲協会より依頼されたものであり、前年度に行われた調査(小川・久保 2018)と同様のものである。なお、今年度は温度計測ロガーをトラップの下部に設置し、気温の記録も同時に行った。

調査結果と考察

平成30年4月から10月にかけて行った調査の結果から、トラップAから186頭、トラップBから171頭、合計357頭のアヤメキバガを捕獲した(表1)。また、5月下旬と8月初旬に2回成虫が発生したことが示された(図1)。今年度の発生ピークは6月10日と8月14日で、昨年度の調査で確認した発生ピークは5月29日と8月7日だった。この2年間の調査結果より、当園では5月下旬～6月初旬にかけて第一化、8月初旬～中旬にかけて第二化の成虫の発生があることが示唆された。

アヤメキバガの防除に関して、ハナショウブの花芽を食害するので開花に直接関与する第一化の幼虫の駆除は極めて重要だと考えられる。前年度は第一化の発生ピークの後に薬剤散布を行ったが、今年度はピークの1か月前に薬剤散布を行った。その結果、前年度より第一化の発生ピーク時における捕獲個体数は半減した

(81/188)。このことから、ハナショウブの開花期に当たっての薬剤散布は、成虫の発生ピークより1か月程度前に行うことが効果的であると示唆された。

表 アヤメキバガの捕獲数と気温

調査日	トラップA	トラップB	最高気温(°C)
4/9	0	0	19.4
4/17	0	0	15.6
4/23	0	0	23.2
5/1	0	0	29.5
5/8	0	0	18.4
5/14	0	0	29.3
5/21	1	1	31.2
5/28	19	14	24.6
6/4	24	29	32.1
6/10	40	41	26.8
6/18	13	19	25.9
6/25	4	5	33.4
7/2	2	3	35.5
7/9	3	2	34.0
7/16	3	1	36.7
7/23	2	0	37.9
7/30	7	2	33.3
8/7	15	9	37.8
8/14	45	31	38.7
8/20	3	0	32.1
8/27	0	5	35.2
9/3	3	8	34.9
9/10	2	1	31.0
9/18	0	0	30.6
9/25	0	0	28.1

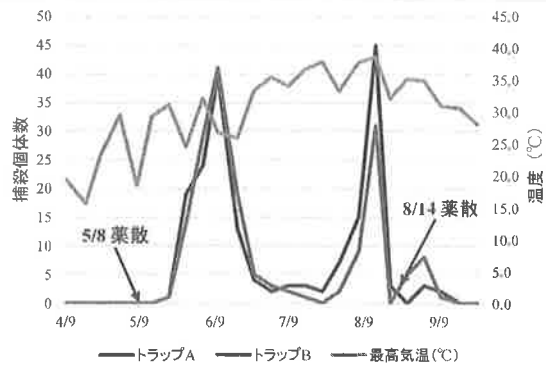


図 アヤメキバガの捕獲数と気温の推移のグラフ

参考文献

小川恒彦・久保晴盛 2018. アヤメキバガの防除とトラップ調査について 広島市植物園栽培記録, 39号: 26.